

資料2

厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会

ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等 の実施状況について

みずほ情報総研株式会社

社会政策コンサルティング部 雇用政策チーム

1. 昨年度振り返りと今年度の点検方針

昨年度の振り返り

- 昨年度、各局 1 施策を対象にEBPM実施計画(ロジックモデル)の点検を実施。
- 全17施策に対し、ロジックモデル及び検証方法の確認を実施。各部局へのヒアリングも行った。その結果、次の2点について、比較的共通した課題が見受けられた。

昨年度点検の結果、各局に共通して見受けられた課題

- 1 ロジックモデルにおいては、現状・課題→インプット→アクティビティ→…→アウトカムの流れにおいて因果関係が明確でない。特に、以下の因果関係が明確でない。
 - ✓ 「現状・課題」→「アクティビティ」、「アウトプット」→「アウトカム」
※政策課題解決のために当該施策の必要性や妥当性に関する説明や、当該施策の実施により期待する効果が得られるという因果関係が明確でない。
- 2 検証方法においては、以下の分析及びその準備が十分ではない。
 - ✓ 事業や施策の対象（介入群）と、それ以外（非介入群）との比較分析
 - ✓ 非介入群の設定が困難な場合、地域や事業（施策）等の実施前後の比較等による効果分析
 - ✓ こうした分析に必要な事前の設計（リサーチデザイン）

※(出典)令和元年度EBPM推進チーム会合資料より抜粋

今年度の点検方針

- こうした昨年度の経験を踏まえ、今年度は主に以下2つの点を重点的に点検した。
 - 1) **ロジック** …ロジックモデルの各要素項目が適切に記され、要素項目間に論理的整合性があるか。
 - 2) **エビデンス**…エビデンスが適切に用いられ、指標や検証方法が適切に設定されているか。

1. 昨年度振り返りと今年度の点検方針 ①ロジックについて

1) ロジックについて

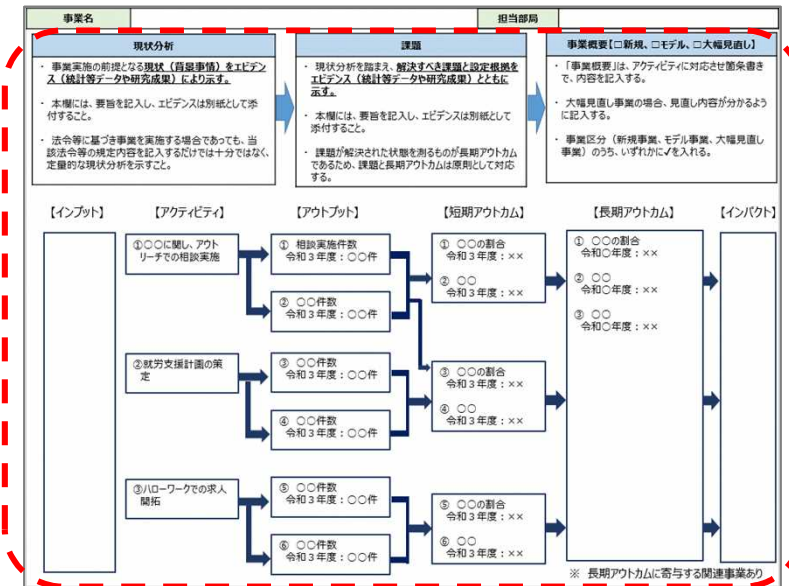
- ロジックについては、主に以下の2つの観点から点検を実施した。

- 観点1a：
ロジックモデルの各要素項目が適切に記されているか
- 観点1b：
要素項目間の流れに論理的整合性があるか

(参考)ロジックモデルの各構成要素

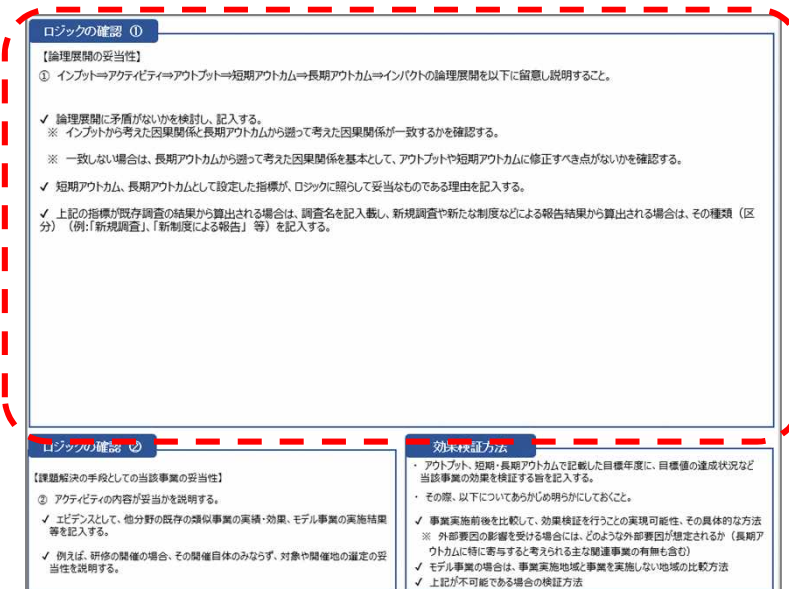
構成要素	定義
現状	<ul style="list-style-type: none"> 課題の前提となる背景事情
課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業の前提となる課題（解決したい課題・社会問題）
インプット	<ul style="list-style-type: none"> 資源投入 事業の実施に必要な予算等
アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施 事業の活動内容
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> 事業実績 事業の実績及びそれに対する目標
短期アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標 当該事業の実施で期待する成果
長期アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標 当該事業の実施で期待する成果に加え関連事業も含めた成果
インパクト	<ul style="list-style-type: none"> 最終目標・社会的影響 事業の最終的な目標

(参考)「ロジックモデル」フォーマットと点検項目



観点
1a

観点
1b

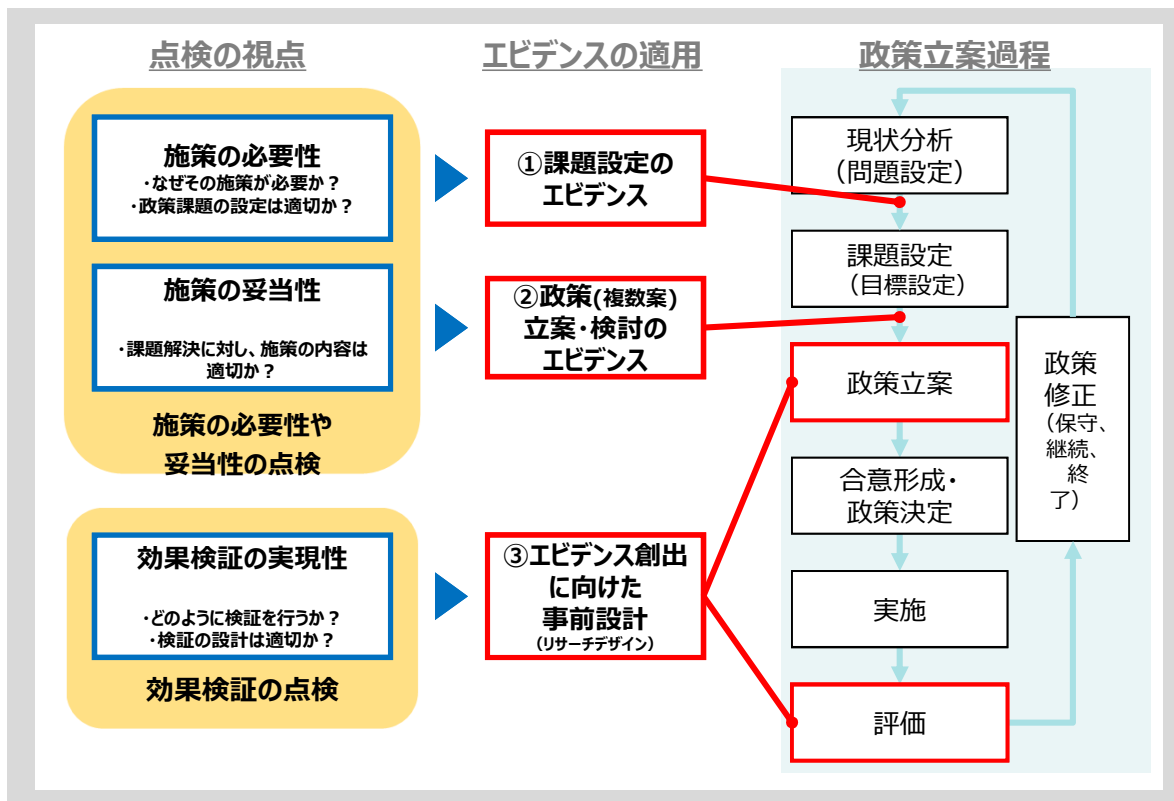


1. 昨年度振り返りと今年度の点検方針 ②エビデンスについて

2) エビデンスについて

- エビデンスについては、主に以下の2つの観点から点検を実施した。
 - 観点2a：
「施策の必要性」と「施策の妥当性」を示す証左としてエビデンスが適切に用いられているか
また、アウトプットやアウトカムにおいて、定量的な指標の設定が適切にできているか
 - 観点2b：
効果検証方法が適切に設定されているか。エビデンス創出に向けた事前設計(リサーチデザイン)が適切か

(参考)エビデンスの適用に関する考え方



(参考)「ロジックモデル」フォーマット(2枚目)と点検項目

ロジックの確認 ①
【論理展開の妥当性】 ① インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開を以下に留意し説明すること。 ✓ 論理展開に矛盾がないかを検討し、記入する。 ※ インプットから考えた因果関係と長期アウトカムから逆って考えた因果関係が一致するを確認する。 ※ 一致しない場合は、長期アウトカムから逆って考えた因果関係を基本として、アウトプットや短期アウトカムに修正すべき点がないかを確認する。 ✓ 短期アウトカム、長期アウトカムとして設定した指標が、ロジックに照らして妥当なものである理由を記入する。 ✓ 上記の指標が既存調査の結果から算出される場合は、調査名を記入し、新規調査や新たな制度などによる報告結果から算出される場合は、その種類(区分) (例:「新規調査」、「新制度による報告」等)を記入する。

ロジックの確認 ②	効果検証方法
【課題解決の手段としての当該事業の妥当性】 ② アクティビティの内容が妥当かを説明する。 ✓ エビデンスとして、他分野の既存事業の実績・効果、モデル事業の実施結果等を記入する。 ✓ 例えば、研修の開催の場合、その開催自体のみならず、対象や開催地の選定の妥当性を説明する。	・ アウトプット、短期・長期アウトカムで記載した目標年度に、目標値の達成状況など当該事業の効果を検証する旨を記入する。 ・ その際、以下についてあらかじめ明らかにしておくこと。 ✓ 事業実施前後と比較して、効果検証を行うことの実現可能性、その具体的な方法 ※ 外部要因の影響を受ける場合には、どのような外部要因が想定されるか(長期アウトカムに特に寄与すると考えられる主な関連事業の有無も含む) ✓ モデル事業の場合は、事業実施地域と事業を実施しない地域の比較方法 ✓ 上記が不可能である場合の検証方法

2. ロジックモデルの点検内容について

- 具体的な点検項目は別紙のとおり。
- なお、別紙で示している48の点検項目と、前述の点検方針の関係性を示したのが以下表である。

	[観点1a] 適切な記述	[観点1b] 論理的整合性	[観点2a] エビデンス活用・指標設定	[観点2b] 検証方法
現状分析	No.1	-	「施策の必要性」提示 No.2～4	-
課題	No.5	No.6	「施策の必要性」提示 No.7～9	-
事業概要	No.10	-		-
インプット	No.11	-	「施策の妥当性」提示 No.36～40	-
アクティビティ	No.12,14	No.13		
アウトプット	No.15	No.32	指標の設定 No.16～20	アウトプット→短期アウトカム No.41～44 アウトプット→長期アウトカム No.45～48
短期アウトカム	No.21	No.33	指標の設定 No.22～25	
長期アウトカム	No.26	No.34	指標の設定 No.27～30	
インパクト	No.31	No.35	-	-

3. 各局のロジックモデル提出について＜再掲＞

- 2020年6月19日 令和3年度予算要求事業のうち、下表に該当する事業についてロジックモデルの提出を依頼。
- 結果、総39事業分のロジックモデルが提出された。

厚生労働省における令和2年度の取組方針

○ 令和3年度概算要求プロセスにおいて、①新規事業、②モデル事業、③大幅な見直しを考えている既存事業のうち、一定の選定基準に該当するものについて、原則としてロジックモデルを作成、このうち一部を公表。

選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が1億円以上の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業
③	大幅見直し事業	対前年度予算額50%以上増加する事業であって、かつ、増加分の差額が1億円以上の事業

※ 新型コロナウイルス感染症関連事業は原則対象外とする。また、特殊事情によりEBPMの実践が困難な場合には、個別協議の上、判断する。

除外基準(選定基準①～③に該当する事業でもロジックモデルの作成・提出を不要とする。)

	事業
i	事業の内容が、現状分析・課題分析を目的とした事業
ii	司法判断により国が実施義務を負うことが明らかな事業
iii	現在の事業において採用されている手法に代わりうる有効な手段を検討することが困難な事業 (外交的判断で意思決定されており、原局レベルで代替案を検討することができない事業等を想定。個別協議の上、判断)

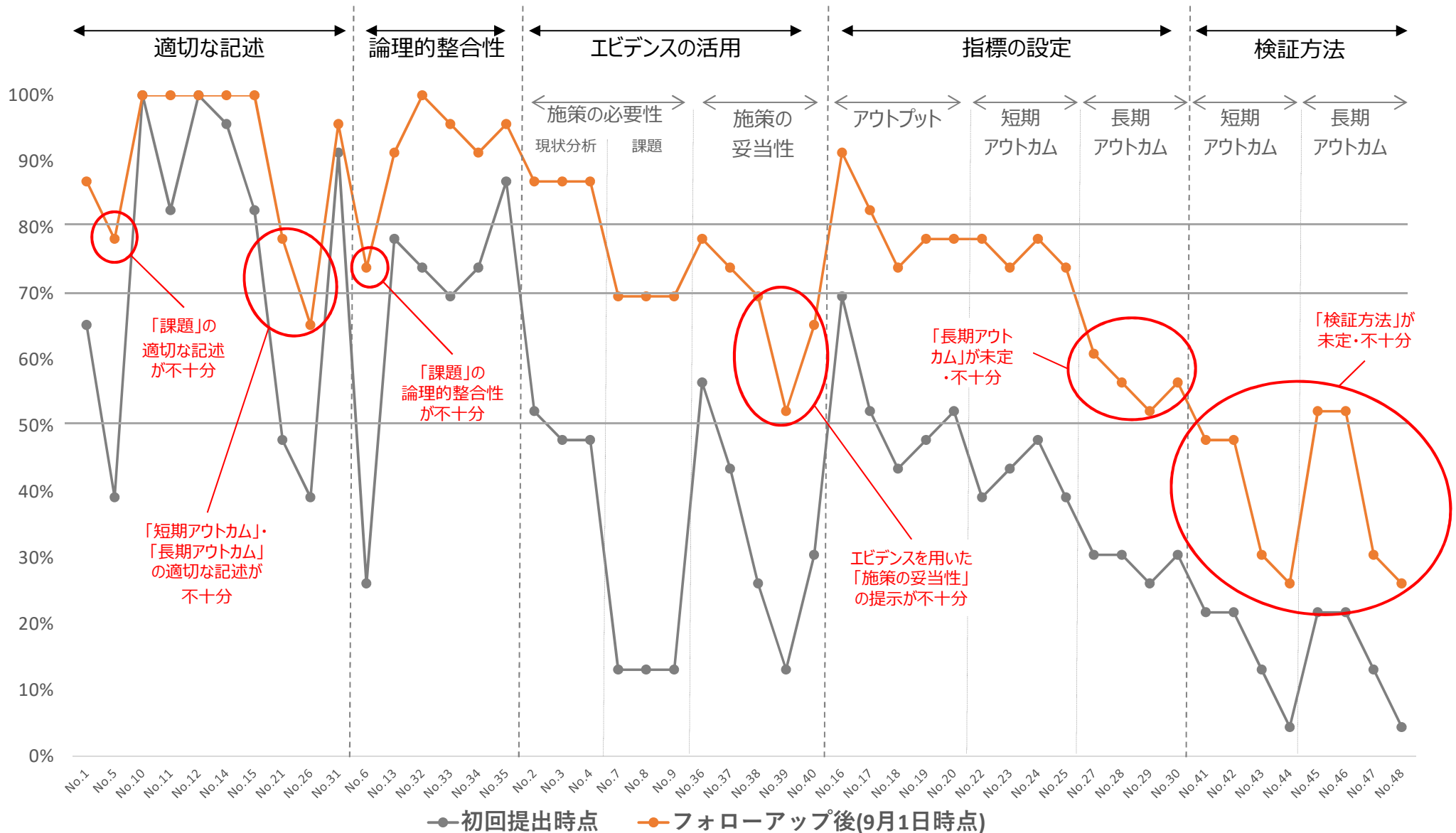
令和2年度EBPM実践事業数

提出時期	総事業数	新規事業	モデル事業	大幅見直し事業
第一次提出(7/17)	39事業			
概算要求会計課長説明に活用(8/3～8/5)	31事業	9事業	14事業	8事業
第二次提出(9月末)※9月1日時点暫定値	23事業	5事業	12事業	6事業

※(出典) 資料1「厚生労働省におけるEBPMの取組状況について」より抜粋

4. 点検結果について ①各項目ごとの点検結果について

- ロジックモデル点検結果について、フォローアップ前後で比較すると以下グラフのとおり。
- フォローアップを実施してもなお「問題なし」の事業比率が相対的に低い項目を丸印で示している。



4. 点検結果について ②点検結果のサマリ 1

● 【観点1】ロジックに係る点検の結果について

- ロジックモデルの「適切な記述」や各要素間の「論理的整合性」について、初回提出時でも概ね7割以上の事業が「問題ない」と判定できる記載内容であった。その後、事務局のフォローアップを経て、多くの項目で9割以上の事業が「問題ない」記載内容となった。
- ただし、「課題」に関する項目については、初回提出時で「問題ない」と判定できる事業は5割未満であり事務局のフォローアップを経てもなお、「問題ない」記述の事業は8割に届いていない。
- また、「短期アウトカム」や「長期アウトカム」の「適切な記述」も、事務局フォローアップを経てもなお、「問題ない」記述の事業は8割未満にとどまっている。
- (※)補足：
複数の事業に共通して見られた記載不備内容として、以下のような特徴が挙げられる。
 - ✓ 「課題」が事業ありきの記載となっている。
 - ✓ 「課題」に取り組む必要性・妥当性の程度が、専門外の第三者からは判断できない。
 - ✓ 論理展開の説明が、因果の説明ではなく単なる言い換えに過ぎない。
 - 「アクティビティAを行うことでアウトプットBとなる。この結果、短期アウトカムCが見込まれる…」

4. 点検結果について ②点検結果のサマリ2

●【観点2】エビデンスに係る点検の結果について

- － エビデンスを活用した「施策の必要性」提示や「施策の妥当性」提示、「指標の設定」について、初回提出時点で「問題ない」レベルの記載をしていた事業は5～6割未満であった。特に、エビデンスを活用した「課題」や「施策の妥当性」の説明は、1～2割程度の事業しか実施できていなかった。
- － しかし、その後の事務局フォローアップを経ることで、概ね7割程度の事業が「問題ない」レベルの記載内容に改善された。ただし、「施策の妥当性」の説明や、「長期アウトカム」の「指標の設定」については、事務局のフォローアップを経てもなお7割の水準には届いていない。
- － また、「検証方法」については、事務局フォローアップを経てもなお5割程度しか「問題ない」レベルに至っていない。特に、比較群の設定や外部要因を排除した検証方法の設定はまだ3割程度にとどまっている。
- － （※）補足：
フォローアップを経てもなお修正が必要な事業について、複数事業で共通して見られる原因は以下のとおり。
 - ✓ モデル事業で実施対象を今後選定するため、適切な指標の設定ができない。
 - ✓ 検証方法については、委員会等で今後検証するため現段階で明記できない。
 - ✓ 効果検証が進捗管理にとどまっており、政策の因果を示す設定となっていない。
 - ✓ 比較群の設定を想定していない、又は設定できない。

【補足】4. 点検結果について -点検結果の元データ(初回提出時点)-

- 初回提出ロジックモデルの点検結果は以下のとおり（n=実践対象23事業）

	[1a]適切な記述		[1b]要素間の論理性		[2a]エビデンス活用・設定		[2b]検証方法	
現状分析	No.1	65.2%	—		No.2	52.2%	—	
					No.3	47.8%		
					No.4	47.8%		
課題	No.5	39.1%	No.6	26.1%	No.7	13.0%	—	
					No.8	13.0%		
					No.9	13.0%		
事業概要	No.10	100.0%	—		施策の妥当性		—	
					No.36	56.5%		
インプット	No.11	82.6%	—		No.37	43.5%	—	
					No.38	26.1%		
アクティビティ	No.12	100.0%	No.13	78.3%	No.39	13.0%	—	
	No.14	95.7%			No.40	30.4%		
アウトプット	No.15	82.6%	No.32	73.9%	指標の設定		アウトプット→短期アウトカム	
					No.16	69.6%		
					No.17	52.2%		
					No.18	43.5%	No.41	21.7%
					No.19	47.8%	No.42	21.7%
					No.20	52.2%	No.43	13.0%
短期アウトカム	No.21	47.8%	No.33	69.6%	指標の設定		No.44	4.3%
					No.22	39.1%	アウトプット→長期アウトカム	
					No.23	43.5%		
					No.24	47.8%		
					No.25	39.1%	No.45	21.7%
長期アウトカム	No.26	39.1%	No.34	73.9%	指標の設定		No.46	21.7%
					No.27	30.4%	No.47	13.0%
					No.28	30.4%	No.48	4.3%
					No.29	26.1%		
					No.30	30.4%		
インパクト	No.31	91.3%	No.35	87.0%	—		—	

【補足】4. 点検結果について -点検結果の元データ(フォローアップ後：9/1点検終了時点)-

- ロジックモデル最終版の各項目の点検結果は以下のとおり（n=実践対象23事業）

	[1a]適切な記述		[1b]要素間の論理性		[2a]エビデンス活用・設定		[2b]検証方法	
現状分析	No.1	87.0%	—		No.2	87.0%	—	
					No.3	87.0%		
					No.4	87.0%		
課題	No.5	78.3%	No.6	73.9%	No.7	69.6%	—	
					No.8	69.6%		
					No.9	69.6%		
事業概要	No.10	100.0%	—		施策の妥当性		—	
					No.36	78.3%		
インプット	No.11	100.0%	—		No.37	73.9%	—	
					No.38	69.6%		
アクティビティ	No.12	100.0%	No.13	91.3%	No.39	52.2%	—	
	No.14	100.0%			No.40	65.2%		
アウトプット	No.15	100.0%	No.32	100.0%	指標の設定		アウトプット→短期アウトカム	
					No.16	91.3%		
					No.17	82.6%		
					No.18	73.9%	No.41	47.8%
					No.19	78.3%	No.42	47.8%
					No.20	78.3%	No.43	30.4%
短期アウトカム	No.21	78.3%	No.33	95.7%	指標の設定		No.44	26.1%
					No.22	78.3%	アウトプット→長期アウトカム	
					No.23	73.9%		
					No.24	78.3%		
					No.25	73.9%	No.45	52.2%
長期アウトカム	No.26	65.2%	No.34	91.3%	指標の設定		No.46	52.2%
					No.27	60.9%	No.47	30.4%
					No.28	56.5%	No.48	26.1%
					No.29	52.2%		
					No.30	56.5%		
インパクト	No.31	95.7%	No.35	95.7%	—		—	